

盲導犬に関する調査研究

—盲導犬に関して一般市民はどのような疑問や意見をもっているか—

埴 和明・石上智美*・徳田克己*

I. はじめに

今日、テレビや新聞において盲導犬が取りあげられる機会が増えており、盲導犬に関する児童書や漫画などの書籍が数多く世に出されている。また全国の盲導犬協会は、大型スーパーマーケットなどの店舗を利用して、全国的に盲導犬の紹介や盲導犬との体験歩行を行っている（全国盲導犬施設連合会、2001）。さらに最近では、福祉教育の一環として盲導犬使用者が学校から講演を依頼され、話をする機会が増えている（盲導犬情報室、2002）。

このように今日では、一般市民が盲導犬に関する情報を入手しやすくなっているが、盲導犬使用者からは依然として「ホテルやレストランの利用を断られることがある」、「盲導犬に無断でさわる人がいる」などの声が聞かれる（清水・竹前、2000）。また世間では、盲導犬に関して「かわいくて賢い犬」、「自分を犠牲にしてがんばっている犬」などのステレオタイプのイメージが強く存在している。このように、盲導犬使用者が誤解や偏見をうけたまま盲導犬を使用している状況を変えていかなければならない。

そこで本研究では、小学生から成人までの一般市民に対する質問紙調査を行い、盲導犬やその使用者に関して一般市民はどのような疑問・意見を持っているかを明らかにすることを目的とした。

II. 方法

(1) 調査対象者

調査対象となった小学生は、千葉県野田市および熊本県鹿本郡の小学校4・5年生(246名)であった。また中学生は、茨城県真壁郡および岐阜県岐阜市の中学校1・2年生(296名)であり、高校生は茨城県水戸市および東京都八王子市の高等学校1・2年生(304名)であった。さらに成人については、東京都にある短期大学の学生および卒業生(卒業後10年以上経過している)とその知人、埼玉県、千葉県、富山県、島根県にある大学の学生、「日本障害者雇用促進協会」の研修会参加者(会社からの派遣による参加であり、特に盲導犬に関して興味や知識のある人たちではない)の18歳~66歳の男女(2,150名)を対象にした。

質問紙の回収率については、小学生・中学生・高校生は100%であり、成人については2,150部を配布し1,587名より回答を得たので、74%であった。表1に回答者の属性を示した。

(2) 調査手続き

調査は2001年5月~8月にかけて行われた。小学生、中学生、高校生、一部の成人(短大生・大学生)については、各学校の調査協力者である先生宛てに質問紙を送付し、授業時間内における質問紙調査の実施を依頼した。また「日本障害者雇用促進協会」の研修会参加者に対しては、講演の際に回答を依頼した。さらに短大の卒業生およびその知人には、郵

表1. 回答者の属性

	男性	女性	不明	全体
小学生(4・5年生)	109名	137名	0名	246名
中学生(1・2年生)	151名	144名	1名	296名
高校生(1・2年生)	173名	130名	1名	304名
成人(18歳~66歳)	810名	773名	4名	1,587名
合計	1,243名	1,184名	6名	2,433名

*筑波大学 (The University of Tsukuba)

送で回答を依頼した。

調査はすべて無記名で行われ、調査実施後には盲導犬に関する解説文をすべての回答者に配布した。

(3) 調査項目

調査項目は、「調査対象者の属性（性別・年齢・所属）」1項目、「盲導犬との接触経験（盲導犬を実際に見たことがあるか、また直接さわったことがあるか）」2項目、「盲導犬に関する情報源（盲導犬のことをどのようにして知ったか）」1項目、「盲導犬や視覚障害者に関する疑問・意見（自由記述式）」1項目であった。

Ⅲ. 結果と考察

(1) 盲導犬との接触経験

盲導犬との接触経験の有無を尋ねたところ、「実際に見たことがある」と回答した者は成人が最も多く53%であり、次いで高校生が33%、中学生が31%、小学生が22%であった。年齢が上がるにしたがって、見たことがある者の割合が高くなっていることがわかる。さらに、実際に見たことがある者のうち「盲導犬をさわったことがある」と回答した者は、中学生（40%）、小学生（32%）、高校生（16%）、成人（12%）の順に多かった。特に小学生と中学生においては、盲導犬を実際に見たことがあるだけでなく直接さわったことがある者が少なくなかった。具体的にどのような場面でさわったかについては不明であるが、全国的に行われている盲導犬に関する啓発活動への参加などが推測される。

(2) 盲導犬に関する情報源

盲導犬のことをどのように知ったのかについて尋ねたところ（複数回答）、各年齢群とも8～9割の者が「テレビを見て知った」と回答した。テレビは、広く一般市民が盲導犬に関する情報を得るための便利な手段であるが、視聴者の感動を誘うように盲導犬の能力を誇張して伝える傾向がある（下村・石上・徳田、2001）。それゆえ、前述したような「かわいくて賢い犬」、「自分を犠牲にしてがんばっている犬」などのステレオタイプのイメージを、一般市民に対して強く持たせてしまう可能性が高いと考えられる。

この他の情報源として、「本」や「新聞」、「映画」を挙げた者は1～2割であった。

(3) 盲導犬や視覚障害者に関する疑問・意見

表2. 盲導犬や視覚障害者に関する疑問・意見（自由記述式）

	小学生	中学生	高校生	成人
盲導犬に関する疑問	96%	92%	70%	62%
視覚障害者に関する疑問	16%	10%	14%	18%
盲導犬あるいは視覚障害者に関する意見	3%	3%	16%	14%
その他	4%	7%	9%	7%
有効回答者数	166名	149名	90名	629名

（複数回答）

*%の母数は各年齢の有効回答者数である。

表2に、盲導犬や視覚障害者に関する疑問・意見を4つに分類したものを年齢別に示した。それによると、各年齢群とも「盲導犬に関する疑問」が最も多く、年齢が下がるにつれてその割合が増加していることがわかった。また「視覚障害者に関する疑問」は各年齢群とも1～2割程度であることが確認された。つまり各年齢群とも、視覚障害者よりも盲導犬に関する関心の方が高いようである。また、9割以上の者が盲導犬に関する疑問を挙げた小学生と中学生に対しては、視覚障害者に関する理解教育の題材のひとつとして「盲導犬」を取りあげることは有益であると思われる。

次に、「盲導犬に関する疑問の具体的な内容」を表3に示した。それによると、具体的な疑問の内容は実にさまざまであり、犬の数・種類、育成費、訓練に関する疑問や、盲導犬の能力、ストレスを問うものなどがあげられている。その他には「盲導犬はテレパシーを持っているのか」（小学生）、「盲導犬は探し物が見つけられるのか」（中学生）などのように、盲導犬の能力を過大視している者がみられた。また「盲導犬はいつ眠るのか」（高校生）、「家にいるときは主人に甘えたりしているのか」（成人）などのように、「盲導犬は常に仕事をしている」という誤った考え方をしている者がいた。

表3に示した「盲導犬に関する疑問」の内容のなかから、各年齢群において回答が多かった上位5つを取りあげ、それを表4に示した。それによると、年齢を問わず1番目あるいは2番目に多かったのは「盲導犬はどのような訓練をうけているのか」という疑問であった。また中学生、高校生、成人では「盲導犬は信号の色や交差点がわかるのか」、「盲導

表3. 盲導犬に関する疑問の内容

	小学生	中学生	高校生	成人
盲導犬はどのような訓練を受けているのか	31名	23名	15名	45名
盲導犬は信号の色や交差点が分かるのか	7名	26名	8名	44名
盲導犬は主人の行きたい場所がわかるのか	3名	7名	5名	45名
盲導犬になるまで何年かかるのか	16名	12名	2名	19名
盲導犬になれる犬の種類が少ないのはなぜか	9名	7名	1名	16名
盲導犬になれる犬の種類は何か	25名	3名	0名	4名
盲導犬の寿命は何年くらいなのか	0名	2名	6名	24名
盲導犬はストレスがたまらないのか	0名	0名	3名	21名
盲導犬は言葉の意味を理解できるのか	2名	3名	4名	12名
日本の盲導犬の数はどれくらいか	6名	3名	1名	8名
盲導犬の数が少ないのはなぜか	3名	3名	1名	11名
盲導犬は主人に階段や段差、交差点をどのように知らせるのか	0名	6名	1名	9名
盲導犬が仕事をできなくなったらどうなるのか	2名	3名	1名	9名
盲導犬を持つにはお金がかかるのか	0名	0名	2名	11名
盲導犬はどのようなものを食べているのか	8名	2名	1名	1名
盲導犬はどこで訓練されるのか	7名	1名	1名	2名
盲導犬は失敗することがあるのか	5名	1名	1名	4名
盲導犬の育成費が300万円以上もかかるのはなぜか	3名	3名	0名	4名
盲導犬が付ける「ハーネス」とはどのようなものか	4名	2名	0名	2名
盲導犬の育成費はどこから出されているのか	1名	0名	1名	5名
盲導犬の訓練所の数はどれくらいか	2名	0名	0名	5名
その他	31名	34名	14名	94名
有効回答者数	160名	137名	63名	389名

(複数回答)

犬は主人の行きたい場所がわかるのか」という盲導犬の能力に関する疑問が出されたのに対して、小学生では犬の数や種類、何を食べるのかなどの盲導犬に直接関係した疑問があげられた。このように小学生と中学生以上を比べると、盲導犬について関心のある事柄が異なっていることがわかる。さらに「盲導犬の寿命は何年くらいなのか」という回答が高校生、成人でみられた。また成人では「盲導犬はストレスがたまらないのか」という回答があった。これらの疑問は、下村・石上・徳田（2001）が指摘しているように、一般市民のなかには「盲導犬は神経を使って仕事をしているため、ペットとして飼われている犬よりも短命である」と誤解している者がいることと関係があると思われる。

表5には、「視覚障害者に関する疑問」の内容のなかから、各年齢群において回答が多かった上位3つを取りあげたものを示した。それによると、年齢を問わず「視覚障害者は盲導犬の世話をどのようにしているのか」という回答が1番目あるいは2番目

にみられた。これは言い換えると「目が見えないのに犬の世話ができるのか」という疑問であろう。また小学生や中学生からは「盲導犬がいてどのくらい助かるのか」、「盲導犬がいるだけで生活できるのか」という疑問があげられた。これらの疑問の内容から、「目が見えないから犬に頼っている、助けられている」などのように、視覚障害者に関してゆがんだ理解がなされていることがうかがえる。さらに高校生と成人では、「（盲導犬を使用しているかどうかに限らず）視覚障害者に対してどのようなときに、どのような手伝いをすればよいか」という回答が最も多かった。このような疑問を持っている者は、これまでに受けてきた福祉教育の中で、「視覚障害者はどのようなことに困っているのか、それに対してどのような援助の方法があるのか」ということを学ぶ機会がなかったのであろう。

表5に挙げた以外の回答としては、「目が見えない人のなかに盲導犬を使用していない人はいるのか」（小学生、中学生）という疑問があった。また「白

表 4. 盲導犬に関する疑問の内容の上位5項目

小学生(160名中)			
1	盲導犬はどのような訓練をうけているのか	31名	19%
2	盲導犬になれる犬の種類は何か	25名	16%
3	盲導犬になるまで何年かかるのか	16名	10%
4	盲道犬になれる犬の種類が少ないのはなぜか	9名	6%
5	盲導犬はどのようなものを食べているのか	8名	5%
中学生 (137名中)			
1	盲導犬は信号の色や交差点がわかるのか	26名	19%
2	盲導犬はどのような訓練をうけているのか	23名	17%
3	盲導犬になるまで何年かかるのか	12名	9%
4	盲導犬は主人の行きたい場所がわかるのか	7名	5%
5	盲道犬になれる犬の種類が少ないのはなぜか	7名	5%
高校生 (63名中)			
1	盲導犬はどのような訓練をうけているのか	15名	24%
2	盲導犬は信号の色や交差点がわかるのか	8名	13%
3	盲導犬の寿命は何年くらいなのか	6名	10%
4	盲導犬は主人の行きたい場所がわかるのか	5名	8%
5	盲導犬は言葉の意味を理解できるのか	4名	6%
成人 (389名中)			
1	盲導犬はどのような訓練をうけているのか	45名	12%
2	盲導犬は主人の行きたい場所がわかるのか	45名	12%
3	盲導犬は信号の色や交差点がわかるのか	44名	11%
4	盲導犬の寿命は何年くらいなのか	24名	6%
5	盲導犬はストレスがたまらないのか	21名	5%

(複数回答)

杖には特別な機能があるのか」(中学生)、「白い杖だけで歩くのは怖くないのか」(高校生, 成人)などの白杖歩行に関することや、「炊事や洗濯, お風呂に入るときはどのようにしているのか」(成人)などの日常生活に関することがあげられた。

「盲導犬あるいは視覚障害者に関する意見」については、以下のような回答があった。

- ・盲導犬は「目が見えない人の頼りになるんだ」と思っている (小学生)。
- ・もっと盲導犬にがんばってもらいたい (中学生)。
- ・自分が目をつぶって少し歩くだけでも怖いので、盲導犬は視覚障害者にとって目の代わりなのだと思う (高校生)。
- ・目が見えないことはとても不便だろう。盲導犬は視覚障害者の面倒をみているのでとても尊敬している (成人)。
- ・テレビで見たのだが、引退した盲導犬たちはとても疲れていて、主人である視覚障害者のために一

生懸命働いたからだと思う (成人)。

- ・白い杖を持った視覚障害者が駅のホームで困っているようだったので、「何か手伝うことはないか」と声をかけたところ断られてしまった。とても恥ずかしい思いをしたので、それ以来声をかけたことがない (成人)。

これらの意見から「盲導犬は視覚障害者のためにがんばっている」というように、盲導犬に関してゆがんだ理解がなされていることがわかる。また成人の回答にあるように、援助の場面で断られた際、それに対して恥ずかしさなどのネガティブな感情を持ってしまうことは次の援助行動を妨げてしまう可能性がある。

IV. まとめ

本研究により、以下のことが確認された。

- ・各年齢群とも視覚障害者よりも盲導犬に関する関

表 5. 視覚障害者に関する疑問の内容の上位3項目

小学生 (27名中)		
1	盲導犬がいてどのくらい助かるのか	7名 26%
2	盲導犬の世話をどのようにしているのか	4名 15%
3	盲導犬を頼りに歩くのは怖くないか	2名 7%
中学生 (15名中)		
1	盲導犬の世話をどのようにしているのか	3名 20%
2	盲導犬に行き先をどのように伝えるのか	2名 13%
3	盲導犬がいるだけで生活できるのか	2名 13%
高校生 (13名中)		
1	視覚障害者に対してどのようなときに どのような手伝いをすればよいのか	4名 31%
2	盲導犬の世話をどのようにしているのか	3名 23%
3	視覚障害者のなかで盲導犬を使用している 人はどれくらいいるのか	2名 15%
成人 (112名中)		
1	視覚障害者に対してどのようなときに どのような手伝いをすればよいのか	35名 31%
2	盲導犬の世話をどのようにしているのか	9名 8%
3	盲導犬に行き先をどのように伝えるのか	7名 6%

(複数回答)

心の方が高いこと

- ・小学生と中学生においては盲導犬に関する関心が特に高いこと
- ・小学生と中学生以上では盲導犬に関して疑問に思っている事柄が異なること
- ・各年齢群とも盲導犬や視覚障害者に関する理解にゆがみがみられること

これらのことは、盲導犬に関する啓発活動や学校や地域での福祉教育において、盲導犬や視覚障害者に関して「誰に」「何を」伝えるかを考える上で、参考にするべきことであると言えよう。

- 石上智美・趙 洪仲・埴 和明 (2002) 韓国における盲導犬の育成および使用の状況, アジア障害社会学研究, 1, 25-28.
- 盲導犬情報室 (2002) 新しい学習指導要領と盲導犬事業, 盲導犬情報, 33, 12-14.
- 清水和行・竹前栄治 (2000) 盲導犬使用者の人権侵害に関するアンケート調査の結果についての報告, 盲導犬情報, 24, 2-7.
- 下村祥子・石上智美・徳田克己 (2001) 盲導犬使用者のマスコミ報道に対するニーズ, 実践人間学, 5, 37-41.
- 全国盲導犬施設連合会 (2001) 平成12年度の主な活動報告, デュエット, 10, 12-13.

引用・参考文献

- 石上智美・埴 和明・徳田克己 (2002 a) 一般市民の盲導犬に対するイメージ-盲導犬に関する認識がイメージに与える影響-, 日本心理学会第66回大会発表論文集, 119.
- 石上智美・埴 和明・徳田克己 (2002 b) 盲導犬とのふれあい盲導犬に関する認識に与える影響-小学生を対象とした認識調査の結果より-, 日本教育心理学会第44回総会発表論文集, 501.
- 石上智美・埴 和明・趙 洪仲 (2002) 韓国の大学生の盲導犬に関する認識, アジア障害社会学研究, 2, 53-58.